

## 慢性じんましんは消風散や香蘇散を

**Q** 四十九歳、女性。生来皮膚がかぶれやすく、五年ほど前から慢性のじんましんに悩まされています。現在皮膚科で抗ヒスタミン剤をもらっていますが、あまり効果がみられず、逆に昼間眠くなって困ります。漢方にはじんましんに効く薬はありますか。

**A** じんましんでお困りの方からの質問が多く寄せられているのでまとめてお答えしたい。

西洋医学と違って漢方ではじんましんに画一的に効く漢方薬はない。患者の全身状態・かゆみの出方などによって処方異なる。皮膚の状態や過敏性も診るが、最も重視するのはどのような時にじんましんが出るかという誘因である。

質問者は「胃腸が弱く、疲れがたまった時、

生魚や油ものを食べると出やすい」と述べている。このような方には香砂六君子湯（こうしゃりつくんしとう）や香蘇散（こうそさん）を試みる。どちらも抗アレルギーや健胃の作用がある紫蘇（しそ）の葉を含んでいる。

ふろ上がりやふとんの中で体が温まると出るタイプの方は、消風散（しょうふうさん）、黄連解毒湯（おうれんげどくとう）など体表の熱をさましながら全身の抗アレルギー作用を發揮する処方を選択する。

冷房など寒冷刺激によって出る寒冷じんましんには、当帰四逆加呉茱萸生姜湯（とうきしぎやくかごしゆししょうきょうとう）、真武湯（しんぶとう）など体を温め、体表の血行をよくして治す処方がある。